

## 2017年度 茨城県第2回強化審判研修会

作成者： 指導部 川俣

8月11日～13日、鹿嶋サッカーフェスティバルユースの部において、ユース審判を含む多くの審判員・インストラクターが参加し実践の場を活用しての研修会を行った。各試合の実践と反省会の他、座学では映像での振り返りやディスカッションで課題を整理し、競技規則改正、指導部の体制説明などレベルアップを図る研修会となった。

### ① < 競技規則改正 > 担当：塚越氏・川俣

JFA ホームページにもアップされている「2017/18 競技規則の改正について」の映像と、要約したパワーポイントを用いて確認。重要項目として第12条ファウルと不正行為、第14条ペナルティーキックの改正を再確認した。

競技規則の明確化を目的とした、競技規則改正の背景や経緯も意識し、より深い理解を得ることも大切。



### ② < 新体制説明 > 担当：西尾氏

- ・指導部派遣アセッサー制度について
- ・アセスメントレポートのスコア非公開化について
- ・強化審判員制度について（定義、リストの非公開化）
- ・審判員に求めるもの（取捨選択能力） 「リテラシー」
- ・前期を振り返って（共通して気になった点）  
キックオフ時刻／アディショナルタイム／交代のメモ／一定の判定基準

## <試合ビデオ撮影振り返り>

(機器の都合により一部撮影できなかった)→後日各自で試合映像DL(柿沼氏)  
各レフェリーが自身のレフェリングを映像で見たり、他のレフェリーの映像と見  
比べるなどして客観的な振り返りを行えるように企画した。



## ③<座学>

担当：宮島氏・岡部氏

初日の座学では、宮島氏から「本気を見せて欲しい!」と叱咤激励があり、2日目以降、今研修会のキーワードにもなった。若手審判員も多く参加する中で、レベルアップするには本気で取り組む姿勢や努力し続けることの重要性を伝えていただき、改めて大きな刺激となった。

2日目の座学は、岡部氏による「主審・副審に必要な要素」、「できたこと、課題の整理、課題を克服するには?」と整理して何故?何故?と繰り返し掘り下げて考えることで、行うべきことがよりクリアに整理出来たと実感する講義となった。

## <総括>

試合の振り返りや講義により多くの気付きや刺激があり、参加した審判員にとって今後のレフェリングに活かされる研修であったことと期待したい。指導部としても引き続きトレセンや研修会を活用し、若手、ベテラン含めた審判員の強化に努めていきたい。

### <参加者コメント>

2日間の研修を通じて、「より良いレフェリーになる為には何をすべきか」、このことを再確認することができました。成長する為に必要なものの一つである自己分析について、インストラクターの方々による試合後の反省会でのご指導は、その分析をする上での基準となり、今後のステップアップにとって必要不可欠なものと感じました。この研修会中に出た3つのキーワード、「チャレンジ」「本気」「がむしゃらに走る」、これらを肝に銘じながら、レフェリーとして更に成長する努力を続けていきたいと思いました。

(2級審判員 兼子敦郎)

今回、初めて3日間の強化審判研修会に参加させていただき、とても刺激があった研修会でした。沢山の審判員の方々のレフェリングを見ることができ、インストラクターの方々からは自分が審判を担当した試合を終えて、的確なアドバイスを受けることができました。私が主審を担当した試合は1試合しか無かったのですが、常に頭の中には「走り」を考えていました。しかし実際は難しく、思うように出来ませんでした。今回学んだことを分析して、これからも茨城県の1人の審判員として、日々努力していこうと思います。

(郡司航己)

